

子どもがキラリと輝く場面をICTで形に残して深い学びを実現

— 初任者研修にてタブレットPCを活用した授業参観 —

守口市教育センター 指導主事 持田 裕一

キーワード：教職員研修、iPad、授業参観、カメラ機能

理解を深め、他の受講者と共有したり、お互いに考えを表現したりすることで主体的、対話的で深い学びとなる研修をめざした。

実践の概要

守口市教育センターが実施する初任者研修にて、「先輩の授業から学ぶ」をテーマに先輩教員の授業観察をおこない、授業づくりを学ぶ研修を実施した。初任者はiPadを使い、授業中に子どもたちが輝いた場面や指導の工夫が輝いた場面を写真に撮る作業をおこない、発表をした。

1. 目的・目標

この研修におけるICT活用のねらいは2つある。1つ目は、研修で教員の深い学びを実現することであり、2つ目は初任者のICT活用力の向上である。

1つ目のねらいでは、初任者研修において、これまで初任者が先輩教員の授業参観をおこない、気づいたことを紙に記録しながら、授業づくりを学ぶ研修をおこなってきた。しかし、初任者が授業参観中にノートにメモをとる時間が長くなり、先輩教員の指導や子どもたちの様子を観察する時間が減ったり、授業参観後、どの場面でどんな子どもの変容があったのか、記録したメモの内容を思いだせなかったり、他の初任者と共有が十分にできないまま研修を終えたりする初任者が多いように感じた。そこで初任者がもっと主体的に研修に参加し、初任者自身が深い学びができる研修内容にするためにはどうしたらよいかを考えた。その際、本市のICT教育推進実践協力校によるICT活用における研究調査を参考にした。ICT教育推進実践協力校では、ICT機器を整備し、子どもたちが授業でICT機器を活用することで、説明したり表現したりする活動が大幅に増加することがわかった。また、「黒板やプリントだけを使って授業を受ける場合と比べると電子黒板や書画カメラ、タブレット等を一緒に使って授業を受ける方が学習の理解が深まるか」とのアンケートには、約86%の子どもたちが肯定的評価をしていた。これらを参考に、子どもたちだけでなく、教員も研修の場でICT機器を活用することで、研修内容の



写真1 初任者研修

2つ目のねらいでは、初任者研修でICT機器を活用することで、初任者のICT活用力を向上させ、ICT機器を授業や教育活動で当たり前のように教材教具の1つとして使うようになってほしいという目標を立てた。ICT機器を使うことでこんな活用ができる、研修でやっていたことを自分の授業でもこんなふうに取り入れてみようと思う気持ちにつながってほしいと考えた。また、そこから、子どもたちにも、こんな活用をさせてみよう、授業の道具として、利用できるようになってほしいと考えた。

2. 実践内容

2.1 タブレットPCで写真撮影

初任者は、先輩教員の授業を見学しながら、自ら子どもたちや授業指導の輝くポイントを探し、ベストショットを撮ろうと、熱心に授業観察をおこなった。その後の話し合いにて、授業参観のふりかえりとしてグループディスカッションをおこなう際に、写真という具体物を用いて、自分の思いや考えを相手にわかりやすく且つポイントを思い出すことができるよう、タブレットPCのカメラ機能を利用し、撮影を初任者が各自でおこなう取り組み実践した。

2.2 タブレットPCで研修のふりかえり

授業観察後は、参観した授業の学習指導案とともに各自で撮影した写真をグループごとに見せ合い、なぜその場面を撮影したのか、どのような指導や工夫がよかったのか協働で話し合いをおこない、まとめ、プレゼンテーション形式で発表をおこなった。

研修に参加した初任者が、受け身の姿勢ではなく、自ら学び、授業指導力を向上させていきたいという意欲を

守口市ICT機器の活用に関するアンケート集計結果

黒板やプリントだけを使って授業を受ける場合と比べると、電子黒板や書画カメラも一緒に使って授業を受ける方が学習の理解や考えが深まると思いますか。(小学校・前期課程)

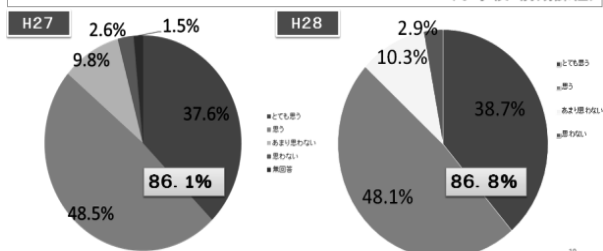


図1 アンケート結果

持って研修に参加しており、タブレットで写真を撮って共有するだけのちょっとした工夫と活用だったが、研修の質を大きく向上させることができた。

3. 成果

研修では iPad の撮影機能を使うことで、授業観察者が子どもたちのキラリと輝く場面を容易に形に残すことができ、さらにそれらの具体的な場面を画像で共有することで、自分自身の授業づくりに対してもこうやって指導していこう、この場面ではこんな指導すると子どもたちがこんなふうに変容していくことができるのではないかとというイメージが格段としやすくなり、協働的な対話を活発におこなうことができた。これは授業づくりにおいても、教員が子どもたちにいくら言葉で説明しても十分に理解されなかったことが、電子黒板等で視覚的な提示とともに説明をおこなうことで理解度や分かりやすさが格段と向上することと同じである。iPad を研修で用いることで画像を使って初任者同士がより活発に話し合いをおこなうようになり、初任者の深い学びにつながった。



写真2 iPadを使った研修

この活用のポイントは、ICT 機器の実技研修で iPad を利用したのではなく、初任者研修として授業づくりを学んでもらう際のツール（道具）のひとつとして取り入れたことだ。これまでも ICT 活用研修や ICT 機器実技研修等はおこなってきたが、ICT に対して苦手意識のある教員や関心の薄い教員は、授業等で ICT を使うことは特別なことであり、自分には難しい、得意な教員が使えばよいという消極的な意見を述べる教員もいた。しかし、ICT 機器は授業や学習で使う道具のひとつであり、教員や子どもたちが筆記用具やノート、コンパス、定規を学習で当たり前のように使うように、タブレット等の ICT 機器も教員や子どもたちが当たり前のように使うことが実感できることが大事であり、今回の研修でも初任者にそのようなねらいをもって使ってもらったことが大きな特徴である。この方法は、各学校がおこなう授業研究会や他の研修にも広めていけるのではないかと感じた。それらを通じて、ICT を授業のツールとして当たり前のように

活用していく教員の育成にもつながるのではないかと考えている。

4. 今後に向けて

この iPad を活用した初任者研修では「研修内容を学校で役立てたいか」との事後アンケートに 100% の初任者が肯定的評価をおこなった。研修を生かし、授業でも子どもたちが iPad を使い、写真や動画を撮ったものをグループ等でプレゼンテーションしたり、協働的な活動に利用したいという感想を述べた初任者もいた。また、iPad を使用しなかった研修と比べて、初任者が研修レポートにまとめる文章量が増加していた。画像として形が残ったことで、授業後も初任者がそれぞれの場面を思い出しやすく、他の初任者の意見や考えの共有が十分にできた成果だと感じている。初任者はこの研修を通して、他人の考えを共有し、自分の考えをブラッシュアップさせることができたのだと思う。

難しい操作や準備は必要なく、ちょっとした工夫で研修の質を大きく向上させることができた。他の研修にも広めながら、ICT を効果的に使いながら深い学びを体験できる研修にしていきたい。そして、ICT 機器を学びのツールとして、筆記用具やノート、チョークや黒板のように、教員や子どもたちが今よりもっと当たり前に使っている授業をめざしていきたい。



写真3 iPadで協働